

1. 高品質ミニトマトの安定生産に向けた取組

日高地方で栽培されているミニトマトは、食味等の品質にこだわり、高糖度と完熟収穫を重視していることが特徴といえる。しかし、栽培管理は各生産者の経験と勘によるところが大きく、収量や品質においてバラツキが大きい。また、冬期に裂果が多発し、出荷ロスが大きいことも課題となっている。

そこで、農業水産振興課では、暖地園芸センター及びJA紀州と連携し、栽培管理の現状把握と環境データの見える化を図るため、印南町内のミニトマト栽培施設6ヵ所において、生育状況と収量、裂果の発生、果実品質について調査を行うとともに、施設内環境データ（気温、湿度、CO₂濃度）の収集を行っている。

これまでの調査の結果や栽培環境データを振り返ると、園主による栽培管理の違いや施設内環境の差異が明らかになった。また、園主の方々も、自らの施設内の状況を数値やグラフで見ることで、これまでの栽培管理の確認や改善の参考となっており、環境モニタリングへの関心が高まってきている。

今後も、引き続き現地の協力を得ながら、各種調査とデータ収集を行い、高品質ミニトマトの安定生産（果実品質と反収の確保、裂果の抑制）を目指した「施設内環境管理モデル」の作成に取り組んでいく。



データロガーによる
栽培環境データ計測



ミニトマト園地での生育調査